

目標達成計画

作成日: 令和 7年 1月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	風水害時の避難方法と避難場所を再度検討し、確定させる。また、消防訓練の回数を増やし、職員への周知を図る。消防の立会いによる避難訓練を実施して専門的意見を得る必要がある。	風水害時の避難方法と避難場所の検討と周知をさせる。 消防訓練の実施回数を現在より増やし、消防立会いを依頼し、専門的意見を得て職員への周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 施設外での避難場所の状況確認を行う。 施設内の避難方法、手順の検討と周知。 消防訓練を3か月に1回に増やす。 消防立会いの訓練を実施、専門的意見を得る。 	12ヶ月
2	23	入居者の思いや意向を汲み取り、新しい情報も含めて口頭や介護記録へ記入し共有し、介護計画に繋げているがフェイスシートへの追記が不十分である。	入居者の思いや意向や新しい情報は引き続き口頭や介護記録へ記入し、介護計画につなげてフェイスシートにも記録を残す。	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の思い、意向、気づき等の情報はフェイスシートに追記する。 情報が多い時はふせんも活用し、記録に残して情報共有を図る。 	3ヶ月
3	26	介護計画は入居者の思いや意向を反映した生活を支援するための柱となるものであるが、毎日の実践状況記録との連動が活かされていない。	介護計画の実践状況記録を連動させ、入居者の思いや意向を反映した介護計画の作成と支援を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 介護ソフトの介護計画のところにある実践状況の記録方法の周知。 当日、出勤の職員で実践状況の記録を行い、介護計画と連動させる。 	3ヶ月
4	10	面会や電話などが少ない家族やLINEを使えない家族に向けて入居者の状況が伝わる工夫が必要。	入居者の状況を伝える手段として手紙(広報)も取り入れ、全ての家族へ伝える体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 面会時、電話やLINEを活用した伝達の継続 手紙(広報)の書式の検討、職員と一緒に作成に関わる体制作りの検討。 実際の作成、送付は(年4回程度)を目指す。 	12ヶ月
5					ヶ月